'STI for SDGs' AWARD

2026 年度「STI for SDGs」アワード　受賞取り組み一覧

〇文部科学大臣賞

団　体　名：豊田市上下水道局

取り組み名：人工衛星・AI・ビッグデータで「水道クライシス」に挑む！

＜取り組み概要＞

人工衛星・AI・ビッグデータを活用した DX で水道クライシスを打破し、24 時間 365 日、すべての市民に安全安心な水を届け続ける持続可能な社会を実現する取組。

＜受賞理由＞

人工衛星、AI 及びビッグデータを活用し、水道インフラが直面する老朽化や人材不足等の課題解決に取り組む DX を推進している。自治体、スタートアップ、関係部署を横断した協働体制により社会実装を実現するとともに、他自治体への展開も進めており、持続可能な社会インフラの実現に貢献する先導的な取組として高く評価した。

※参考情報：

https://www.city.toyota.aichi.jp/kurashi/jyogesuidou/1062795/1074886/index.html

〇科学技術振興機構理事長賞

団　体　名：株式会社宇宙木材工房、京都大学、龍谷大学、九州工業大学、住友林業株式会社
有限会社黒田工房、利昌工業株式会社

取り組み名：木造人工衛星「LignoSat」の開発

＜取り組み概要＞

木材などの再生可能資源材料を外装・構造に用いた低環境負荷な人工衛星を開発し、宇宙空間での耐久性や劣化特性を実証することで持続可能な宇宙開発に貢献する取り組み。

＜受賞理由＞

木材という再生可能資源を宇宙開発へ活用する独創的な発想のもと、持続可能な宇宙利用に向けた新たな可能性を提示している。木造人工衛星の開発・実証を通じて、環境負荷低減と科学技術イノベーションの融合を体現するとともに、未来世代に夢と希望を与える挑戦として高く評価した。

〇優秀賞

①団　体　名：国立大学法人 徳島大学
取り組み名：革新的デバイス「ヴァスガイド」によるロボット手術の標準化と社会実装

＜取り組み概要＞
　医師主導のデバイス「ヴァスガイド」でロボット手術の血管操作を安全に標準化。全国 120 施設超への社会実装で、外科医の負担軽減と地域医療格差を解消する。
＜受賞理由＞
　医療現場の課題から生まれた革新的デバイスにより、ロボット手術の安全性向上と標準化を実現するとともに、全国規模での社会実装を進めている。これからも全国への展開や新たな開発が期待できる。地域医療格差の解消や医療従事者の負担軽減に貢献する優れた医療イノベーションとして高く評価した。

　※参考情報：https://tokushima-u-urology.jp/cooperation

②団　体　名：株式会社中川
取り組み名：大型ドローンの導入による林業の働き方改革

＜取り組み概要＞
　育林特化の林業を展開し、大型ドローン開発による省力化と女性雇用を実現。災害時資材運搬協定締結で地域貢献。苗木育成を障害者施設と連携して行い、9 都県で事業展開中。
＜受賞理由＞
　大型ドローンの活用による林業の省力化に加え、女性雇用、障害者施設との連携、防災対応など多面的な社会課題解決を実現している。地域資源と科学技術を活用しながら持続可能な林業モデルを構築し、地方創生の新たな可能性を示した取組として高く評価した。

　※参考情報：https://nakagawa-forestry.com/

③団　体　名：新潟県厚生農業協同組合連合会佐渡総合病院、佐渡市立両津病院、
株式会社ヘルスケアリレイションズ、株式会社ケアコム、
新潟県イノベーター育成臨床研修コースプロジェクトワーク II メンバー
取り組み名：佐渡地域における入院病床統合管理体制の構築

＜取り組み概要＞
　地域の全病院病棟の稼働状況と看護師業務量を電子カルテ等から自動的に可視化、限られた地域の入院病床資源を効率的に活用して持続可能な入院診療体制の構築を図る。。
＜受賞理由＞
　地域全体の病床運営を可視化し、限られた医療資源を最適活用する統合管理体制を構築している。人口減少地域が直面する医療課題に対し、ICT を活用して持続可能な医療提供体制の実現を目指す先進的な取組として高く評価した。

〇奨励賞

①団　体　名：高度マテリアルリサイクル研究会（公益財団法人全日本科学技術協会、TOPPAN 株式会社）

取り組み名：自治体指定ごみ袋における家庭プラごみ再生材活用

＜取り組み概要＞

異物が混入し物性が劣化した家庭プラごみ再生材を、独自の改質処理でバージン材に近い品質へ回復させ、日常的に使える自治体指定ごみ袋として社会実装を目指す取組。

＜受賞理由＞

家庭系プラスチックごみの再資源化に取り組むとともに、技術開発だけでなくルール形成や社会受容性向上にも挑戦している。循環型社会の実現に向けた実践的取組として将来性を評価した。

※参考情報：https://www.jarec.or.jp/material/index.html

②団　体　名：株式会社ハンマーバード、千曲市役所

取り組み名：『ポリネコ！CHIKUMA』による中学生からの市政参加

＜取り組み概要＞

デジタル基盤「ポリネコ！」を活用し、中学生がこども基本法の精神を地域で実践しながら、10 代からの市政参加を果たす取組。

＜受賞理由＞

デジタル技術と対話を組み合わせることにより、子どもの意見表明や市政参加を促進し、参加型社会の実現に取り組んでいる。こども基本法の理念を地域で実践する先駆的事例として評価した。

※参考情報：https://chikuma.polineco.jp

③団　体　名：牛乳石鹸共進社株式会社

取り組み名：コップ一杯の水で洗髪出来るポータブル洗髪デバイスセット「SUSUGU」

＜取り組み概要＞

コップ一杯の水で洗髪できるミストブラシ＆シャンプーセット。入浴が困難な方や水の使用が制限された状況でも、お風呂で頭を洗ったような爽快感・さっぱり感を提供する。

＜受賞理由＞

限られた水で洗髪できる技術により、高齢者介護や災害時の衛生環境改善に貢献する可能性を有している。誰もが利用しやすい製品として社会課題解決への発展が期待される取組として評価した。

※参考情報：https://susugu.jp/

〇次世代賞

①団　体　名：愛媛県立松山南高等学校 ばーちゃるず
**　取り組み名：デジタル校舎保存プロジェクト ～記憶の保存と未来の可視化～**

＜取り組み概要＞
　本校にまつわる文化や思い出を未来に残し、伝えるため、校舎のメタバース化及び防災アプリの開発を行う取組。
＜受賞理由＞
　デジタルツインやメタバース、防災シミュレーション等の先端技術を活用しながら、地域の記憶継承と防災教育に取り組んでいる。高校生による主体的な科学技術活用の好事例として高く評価した。

　※参考情報：https://mmh-virtual.jp

②団　体　名：Team SAYA、スズキイノベーションセンター（SIC）
**　取り組み名：インドと日本の廃棄作物使用の SAYA ポットで「捨てる」を「育てる」へ**

＜取り組み概要＞
　廃棄作物を和紙技法に着想を得て新素材 SAYASheet に再資源化し、日本とインドをつなぐ育てる循環を通じて、食品ロス削減・農家支援・環境教育を目指す取組。
＜受賞理由＞
　廃棄作物の再資源化を通じて環境課題と国際交流を結び付け、日本とインドをつなぐ循環型社会の実現に挑戦している。高い主体性と実践力を備えた次世代人材による取組として評価した。